

	SIPP/SPD Survey of Program Dynamics (SPD) First Longitudinal File: Data Years 1992, 1993, 1994, 1996, and 1997 [ICPSR 3315] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03315.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03315.xml</a>	このファイルは、1992、1993、1994、1996、1997年の社会経済的データを含む修正されたファイル。個人、家族および世帯に対する福祉改革の影響の縦断分析のために設計されている。このファイルから、さらに SPD 1998(ICPSR 2917)、SPD 1997年 Bridgbe(ICPSR 2797)、および1992年(ICPSR 6429)と1993年(ICPSR 6886)の SIPP パネル・ファイルにリンクできる。ファイルは、世帯の各メンバーの4あるいは5年間の、基礎的な属性、経済的・社会的特性データを含む。	属性(年齢、性別、民族的背景、婚姻区分、世帯関係、教育、軍歴)、経済データ(仕事の経験、雇用状況、職業、産業、働いた週と一週間に働いた時間、総収入と内訳、15歳以上の人の収入の部分)、収入データ(仕事からの収入、ビジネス・農場・賃借料からの純益、年金、配当、金利および社会保険支払い)、また非現金収入(フーズスタンプ、学校ランチ・プログラム、雇用者に提供される年金、Medicaid、Medicare、CHAMPUS か、軍の医療保険、および光熱費援助)などのデータ。 ファイルは、41州とコロンビア特別区を含む。しかしながら、サンプルは州データを出すために設計されていない。残りの9州の SPD サンプルは機密性を保つために3グループとして識別される。 3つのグループは以下のとおり:メイソンのおよびバーモント。アイオワ、ノースダコタ、サウスダコタ。アラスカ、アイダホ、モンタナ、ワイオミング。	パネルから導入される。 SPD1997年: BRIDGE SURVEY(ICPSR 2797)は、1992、1993年に回収した「収入とプログラムの参加調査(SIPP)」の全国の居住地域を代表するよう選ばれたパネルのおよそ29,619の世帯をインタビュアー。SPDの1998年の PUBLIC USE FILE(ICPSR 2917)では、1997年の世帯インタビュアーの中からサブサンプルの19,129世帯が継続的なサンプルとして選ばれた。低収入の世帯および子どものいる世帯は、確実に、あるいはほぼ確実に、選ばれた。中・高収入でかつ子供のいない世帯が、サンプルに選ばれる確率は4分の1であった。	
1			SPDのトピックはSIPPからの拡張であるが、“March Supplement to the current Population Survey”, “Panel study of Income dynamics”, National Longitudinal surveys”などの年次恒例の調査からのガイダンスを使用して、年次恒例の調査質問票の中に取り入れられている。さらに、充分活用されるために、SPDの中のファイルはSIPPのファイルとリンクすることができようになっている。同じ世帯に対して、SIPPおよびSPDの両方で行なわれたインタビュアーは、同じ人口についての情報を増		
2		SPD シリーズは、1996年の Personal responsibility and Work Opportunity Reconciliation Act に応え、アメリカ商務省、国勢調査局によって開発。SIPP の1992,1993年パネルに参加した世帯から、法律の効果を評価するのに必要なデータを収集するため。			
2		SPD プログラムの目的は、政策決定者に、最近の福祉改革の効果、改革がどのように互いに、影響し合っているか、また雇用、収入と家族の状況にどう影響しているか、および福祉改革の受益者やその家族、こどもをwell-being への長期影響などを評価する調査を提供する			

		<p>こと。プログラム期間は、改革前から改革後の、1992-2002年(1992年のSIPPパネルのデータとの結合による)。過去の経済歴、雇用、収入およびプログラムの参加に関する情報を得るために、2つの過去のSIPPパネル(1992年と1993年)が、SPDサンプリングに選ばれた。SPDの測定具には、1998-2002期間のものと基本的に同じ中核と、毎年変わる話題のモジュールがある。中核になる情報は、基礎的な属性、労働力活動、現金・非現金収入およびプログラムの参加。SPDには、さらに成人の質問、および子供に関する質問から成る2つの部分がある。</p> <p>(United States Department of Commerce, Bureau of the Census)</p>	<p>やすことになる。例えば、1992年と1993年のSIPPパネルのデータが福祉改革の影響を評価する広範囲なバックグラウンドを提供している一方、1997年のSPD、実験的ブリッジ調査ファイルは、改革前中間・改革導入期・中間期・改革後期間にインタビューを受けた同じ人口のペーパーをカバースするデータを提供している。</p>		
<p>所得 ・ 労働 1 2 3</p> <p>所得補助</p>	<p>SIPP/SPD Survey of Program Dynamics (SPD), 1998: Public Use File [ICPSR 2917] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02917.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02917.xml</a></p> <p>「プログラムダイナミクス調査公共利用ファイル 1998年」</p>	<p>アメリカ合衆国の人々の経済状況と活動の概況を提供する。毎月の労働力データと、仕事の経験、収入、非現金の補助についての補足データを提供する。</p> <p>(United States Department of Commerce, Bureau of the Census)</p>	<p>SPDは毎月の労働力データを提供し、さらに、仕事の経験、収入および非現金補助の補足データを提供する。包括的な仕事経験情報は、15歳以上の人の雇用状況、職業、産業、働いた週、一週に働いた時間数、フルタイムで働いていない理由、収入合計、収入の内訳など。現在労働している人だけでなく労働力していない人の情報もある。</p> <p>質問は、回答者の仕事に対する現在の望み、過去の仕事経験および、求職の意図などをカバー。SPDは、さらに9つの非現金収入の出所をカバースするデータを含む：フードスタンプ、学校ランチ・プログラム、</p>	<p>SPD1998年のPUBLIC USE FILEでは、1997年の世帯調査のサブサンプリング19,129世帯が継続的なサンプリングとして選ばれた。低収入の世帯およびこどもものいる世帯は、確実に、あるいはほぼ確実に、選ばれた。中および高収入でかつ子供のいない世帯が、サンプリングに選ばれた。確率は4分の1であった。</p> <p>調査実施 1998年5, 6, 7月</p>	

			<p>雇用に提供される団体健康保険、雇用に提供される年金、個人の健康保険、Medicaid、Medicare、CHAMPUS か軍の医療保険、また光熱費援助。調査世帯の各人についての、基礎的な属性、社会および居住建物のユニットの数のような特性についてのデータも多少ある。</p> <p>属性（年齢、性別、民族的背景、結婚、家庭関係、教育、兵歴）、経済データ（仕事の経験、雇用状況、職業、産業、働いた週と一週間に働いた時間、収入合計、15歳以上の人の収入の内訳）、収入データ（仕事からの収入、ビジネス・農場・賃借料からの純益、年金、配当、金利および社会保障支払い）、また非現金収入（フードスタンプ、学校ランチ・プログラム、雇用に提供される団体健康保険、雇用に提供される年金、Medicaid、Medicare、CHAMPUS か、軍の医療保険、および光熱費援助）などのデータ。</p> <p>ファイルは、41州とコロンビア特別区を含む。サンプルは州データを出すために設計されていない。残りの9州のSPDサンプルは機密性を保つために3グループとして識別される（メインおよびババーモント。アイオワ、ノースダコタ、サウスダコタ。アラスカ、アイダホ、モンタナ、ワイオミング）。</p>	<p>母集団は1992年3月および（または）1993年3月に、刑務所および老人ホーム、軍の世帯などの施設に住んでいる人々以外で、アメリカ合衆国に居住した人々。コスト制約のために除外されたか、1998年のインタビュー前に脱落した人々以外の、収入とプログラム参加(SIPP)パネルの1992年と1993年の調査のオリジナルのサンプル。*</p>	<p>* SPD1997年 : BRIDGE SURVEY(ICPSR 2797) は、1992、1993年に回収した「収入とプログラム参加調査(SIPP)」の全国の居住地域を代表するように選ばれたパネルのおよそ29,619世帯をインタビュー。SPD1998年 PUBLIC USE FILE (ICPSR2917)では、1997年の世帯インタビューの中からサブサンプルの19,129家庭が継続的なサンプルとして選ばれた。低収入の世帯および子どもに選ばれる世帯はほぼ確実に選ばれる。中高収入でかつ子供に選ばれない世帯が、サンプルに選ばれる確率は4分の1。</p>
	<p>SIPP/SPD Survey of Program Dynamics (SPD) Second Longitudinal File: Data Years 1992, 1993, 1994, 1996, 1997, 1998, and 1999 [ICPSR 3594] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03594.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03594.xml</a></p> <p>「プログラムダイナミクス第二次追跡調査ファイル 1992、1993、1994、1996、1997、1998、1999年」</p>	<p>1992-1999年の社会経済的なデータを含む加工ファイル（1995年は除外）。福祉改革が個人・家族・世帯に及ぼした影響の長期的分析のために意図された。ファイルは下記にリンクできる : SPD First Longitudinal File (ICPSR 3315), SPD 1997 Bridge (ICPSR 2797), SPD 1998 (ICPSR 2917), the SIPP panel files 1992 (ICPSR 6429) と 1993 (ICPSR 6886).</p> <p>(United States Department of Commerce. Bureau of the Census)</p>	<p>アメリカ合衆国人口の経済状況と活動のデータ。SPDは毎月の労働力データを提供し、さらに、仕事の経験、収入および非現金による補助の補足データを供給。</p>	<p>施設や兵舎に住んでいる人以外のアメリカ合衆国の居住人口 SPD は、1992、1993年の</p>	
1	<p>SIPP/SPD Survey of Program Dynamics (SPD), 1997: Experimental File [Bridge Survey]</p>	<p>このデータセットは「収入とプログラム参加(SIPP)」調査の1992、1993年のパネルと「プログラム力学 (SPD)」</p>			
2					

5	<p>II CPSR 27971  <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02797.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02797.xml</a></p> <p>「プログラマダイナミックス実験的調査ファイル(ブリッジ調査) 1997年」</p>	<p>1998-2002 年次調査間の橋渡しをするものである。  1992、1993年のSIPPで集められたデータは、福祉改革の効果割り出す広範囲なバツクグラウンド情報を提供する。SPDの中の同じ世帯とのインタビューは、改革前・改革の導入期・改革後のそれぞれの時期のベータスラスラをカバーするデータを提供する。SPDからのデータは、アメリカ合衆国の人々の、現在の経済状況と活動の概略を提示する。</p> <p>(United States Department of Commerce, Bureau of the Census)</p>	<p>包括的な就業経験情報は、15歳以上の人の雇用状況、職業、産業、働いた週、一週に働いた時間数、フルタイムで働いていない理由、総収入、収入の内訳など。現在労働している人だけでなく労働力していない人の情報もある。  質問は、回答者の仕事に対する現在の望み、過去の仕事経験および、求職の意図などをカバー。SPDは、さらに9つの非現金収入出所をカバーするデータを含む: フードスタンプ、学校ランチ・プログラム、雇用者に提供される団体健康保険、雇用者に提供される年金、個人の健康保険、Medicaid、Medicare、CHAMPUS か軍の医療保険、光熱費援助。調査世帯の各人についての、基礎的な属性、社会および経済特性。年齢、性別、人種、民族、婚姻区分、居住物のユニット数のような特性についてのデータも多少ある。</p>	<p>1968-1970、1970-1972、1972-1974および1974-1976。  初期の6年に集められたデータは、身体的、心理的、および社会的領域に焦点が置かれた。知能、パーソナリティおよび警戒心についての心理学的データが集められた。社会的データは、心理学的測定とも関係する自記式測定を含む。医者によってさまざまな検査がされ、病歴も調べた。</p>	<p>502人の白人アメリカ人、261人の男性および241人の女性。46~71歳。347人のコア参加者は、4波すべてに参加。ダーラム郡、ノースカロライナの主要な健康保険協会の会員名簿から。  中年後期のより若加者(46-71歳)を加えることにより「適応」について。クロスセクションのデザインにすることにより、第1回デューク追跡研究に付随するものとして開始した。</p>	<p>SIPP 全国を代表するよう居住区が科学的に選抜されたパネルからの30125世帯をインタビューした。  調査時期 1997年 4-6月</p>	<p>1981年2月に、1981-85のクラスからの学生の任意のサンプルに届け</p>
1	<p>中高年・生活・適応</p>	<p>研究参加者が老年に入るにつれて、中年期の通常の発達を理解し、個人が標準的な人生の転換に適応する過程を検討すること。 (空の巣、退職、配偶者との死別など) そして、中年期、老年期を特徴づける、「普通の」心理的、社会的、生物医学的変化を特定する。</p>	<p>人口分析と家族背景、人生のゴール、キャリアの価値、自尊心および自己像、さらに大学での経験、大学プログラムおよびバツ</p>	<p>7 大学研究は、男性と女性の、自尊心、対人的自信、自己概念を比較する。</p>	<p>7 大学協議会加盟大学の女子学生と、ハーバード大学と Vassar 大学の男子学生。</p>	<p>1981年2月に、1981-85のクラスからの学生の任意のサンプルに届け</p>	<p>1981年2月に、1981-85のクラスからの学生の任意のサンプルに届け</p>

2	学生 ・達成	Undergraduates at the Seven College Conference of Schools (ds618) 1981-84年 「7大学研究：7大学協議会加盟大学の学部生としての、目標、態度、価値観、経験」 大学生／1年後／3年後／3回	性格の特性がどれくらい、性別に関係した目標、結婚や家庭についての計画、職業と家庭での責任の組み合わせの好み、将来の人生の優先順位などと関係があるか。	一ビスに対する態度およびストレスについて。 1982年に1982-84のクラスからの学生がフォローアップの質問票を記入。 1983-84年フォローアップが1984年のクラスに行なわれた。	7大学協議会加盟大学は、女性の成功者の著しく高い数でこれらの学校の卒業生であることを示す先行研究に基づいて選ばれた。男子学生と女子学生の目標と興味関心を比較するため、ハーバードとVassarの男子学生のサンプルが研究に含まれた。	られ2か月間で回収。回収率は75%以上で、女性4000人男性600人。
7						
1	若者 ・問題 行動	Socialization of Problem Behavior in Youth (ds782) 1969-1972年1979-1981年 「青少年の問題行動の社会化」 7, 8, 9年生／6回	若者の問題行動、変化の発達過程、成長を、社会心理学的、心理社会的文脈で検討。	行動、パーソナリティ、認知される環境についてのさまざまなサブスケール。 1970年に行われた、母のイデオロギー「家族インタビュ研究」に関する研究は、「高校研究」の参加者の200人の親が対象。母親との半構造化したインタビュを通じて集められたデータは、親の考え、態度、振る舞いおよび社会化慣習の様相をカバーした。母親と父親は、個別に、パーソナリティと態度の測定質問票を記入。若い成年期に重要な人生の問題と関連の行動についての質問票が送られた。*	7, 8, 9年生の男女。1969年から1972年まで毎年。合計589人の参加者。1951年に生まれた276人の男女の参加者の集団で構成。最初に追跡コーホート継続「高校研究」、追跡研究である「大学研究」そして第一波の「過程インタビュ研究」、第二波フェーズでは、「ヤングアダルトフォローアップ研究」に、フェーズ1からの参加者のうち2つのサンプルが含まれた。	589人*1979年(V波)および1981年(VI波)に「高校研究」参加者および「大学研究」参加者をフォローアップして、「ヤングアダルトフォローアップ研究」とした。VI波では、384人の「高校研究」参加者および184人の「大学研究」参加者がいた。
2						
8						
1	障害者 ・健康 医療	Springfield [Massachusetts] Study of Populations with Disabilities, 1993-1997 [ICPSR 2623] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02623.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02623.xml</a>	マサチューセッツ・スプリングフィールドに在住の障害をもつ人への2波調査。 フォローアップ、インタビュ、フォローアップの利用状況を知ることで、ADL, IADL 援助にないニーズを把握、満たされないニーズの高い人ほど、追跡時において救急医療の利用や入院が多いかの検証、回答者の医療ケアとアクセスと質の満足度の評価。	健康状態、健康サービス利用、サービスの満足度、ADL, IADL, 社会的身体的活動、社会サポート、医療保険、社会経済的屬性(収入、出生年、婚姻状況、人種、ヒスパニックか否か、宗教、教育、就業状況)。	1993-1994年、マサチューセッツ・スプリングフィールドに在住の18歳以上の障害をもった人。 ベースライン調査の対象者はRRDによって選ばれ、ネットワークサンプリング。18-64歳と65歳以上が半々になるように年齢によって層化。 632人中592人が1996-1997年の再調査参加に	ベースライン632, 追跡424
2						
9						

1	子育て・子どもの発達	グフイーールド／18歳以上／4年間・2回	Stanford Longitudinal Study (ds799) 「スタンフオード長期研究」 スタンフオード大学／0-6歳／9年間／	出生時のホルモンと後年の行動、男の子と女の子6歳までのジェンダー差異の関係。親子関係。こどもの気質と大人の態度と行動の反応の相互作用。	研究では母子間の相互作用、父子間の相互作用、子育て方法、こどもの強さ、こどもの睡眠パターン、こどもの臆病さ、こどもの認知的能力、こどもの気分と状態（たとえば眠っているか起きているか、喜んでいたり怒っているか）、さまざまな刺激へのこどもの反応を評価した。 誕生時、臍の緒から15ccの血液が看護師によって採取された。強さ、行動パターン、認識の能力および親子間相互作用の測定がさまざまな年齢のときに行なわれた。Appar scores、標準化された認知テスト、親への質問票、教師への質問票、親へのインタビュウ、睡眠スケジュール、こどもと親のさまざまな状況での観察など。	同意、実際には424人参加。うち101人は、死亡か施設に入った人の代用サンプル。63人は拒否。105人は追跡不能。電話と面接調査。 参加者は「Appar 3分スコア」の7以上の正常な誕生からの257人の幼児。参加者はみな英語を話し、中の上階層。主に白人で男女同数。1973年に開始され、257人のこども（0-6歳）が年齢の違う3つの集団で研究された。	9年間に、257人の参加者のうちの156人（60.7%）はそれ以上の研究への参加は不可能となった。
1	青少年の発達	Studies of Girls' Development, Ages 6-17 (ds166) 1981-1990年 「少女の発達研究6-17歳」 9-12年生／9年間？	1981-1984年、エマ・ウィラード校(9-12年生の寄宿・通学女学校)での思春期の少女に関する縦断研究。エマ・ウィラード校研究は、異なる年齢の思春期の少女がどのように自身、他者との関係およびモラルについて理解し記述するか調査するように設計された。	少女と少年のモラル、関係、自己イメージ、教育のゴール、キャリア可能性およびこどもに関する決断に関するピックについての質問票および集中的な質的インタビュー。「ミドルセックス研究」では、思春期の青少年が、青年どのように考え、選択するか、そして彼らの選択の経験がどのようにに彼らの自意識と関係しているかが検討された。「男子と女子クラブ研究」(1985)と「思春期青少年コミュニケーションプロジェクト」(1986)では、より多様なグループの思春期青少年が調査対象となり、思春期青少年が、成人やコミュニケーションとの関係についてどう考えているかが調査された。 *	*「ローレル校研究」は、女性の思春期の発達と教育について検討した1986年から1990年までのクロスセクショナル、縦断研究。同時に、1987-1990の「思春期青少年を理解する研究」(「ケンブリッジ学校群研究」ともいわれる)では、高校中退および(または)若年妊娠の「危険グループ」と指定された都市部の公立高校に通う男女生徒をインタビューした。***	**1983-1984年に、思春期の青少年に対する学校のプログラムの影響を理解するために、プレーク校(幼稚園から高校までの共学の通学学校)の15歳の少女少女に対しての小研究が行なわれた。プレーク校研究ではミドルセックス校(比較可能な共学)の生徒も含まれた。 1984-1986の3年間の追跡調査が行われた。	**教師：学生個々の評価と、学生とこれらの教
1	青少年	Study of Life Transitions (ds1015)	教室と家庭環境の変化が思春期のこどもたちの成績関連	最初の2年は、数学の授業中に2回、6年生のとき1回、7年生で2回広範囲な質問	6年生のサンプル、教師および親は、南東ミシガン州の		

3	年の発達・学業達成	「人生の転換期研究」 南東ミシガン州公立学校／6 年生／5回	の考え、やる気、価値観、行動に与える影響を調査。	問票に記入。教師と親も質問票を記入。 ・学生：広範囲の環境上の特性、および成績に関連する動機についての指標を含んでおり、数学・英語・身体技能、社会活動そのほかについて、学生の考え、価値観、態度を幅広く調べた。さらに、教師の公平さおよび親しみについてや、学生間の競争や社会的比較、および友情、競争、学生間の社会比較、学生間の相対的な学習の機会および教師の教学への関心について。*	中程度の収入の地域にある、12の公立学校地区から抽出された。 およそ3,248人の思春期青年； 教師(143の教室からの)の95%および親の72%に参加依頼。学校地区の選択は、6年生から7年生になるときに伝統的な中学への移行を経験できる学区が選択された。	室での実際についての一般的な信念について調べる質問票を記入。 親；数学、家族の意志決定および他のトピックに関する自分の信念のこどもについて、自分の思っているかについての質問票を記入。よりマクロレベルの、教室における教育のプロセスについての観察も行った。
1	家計	Survey of Consumer Finances Panel Survey, 1983-1989 [ICPSR 6892] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06892.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06892.xml</a>	消費者の家計状況についての調査。 1983, 1989年調査のデータをリンク。 (Kennickell, Arthur, the Board of Governors of the Federal Reserve System)	税金関連の記録から	アメリカの合衆国の大陸48州で、22歳以上の人。1983年調査で作成した地域確率抽出を修正し1989年に使う。1983年の回答者全員を訪問。前と同じ人であれば、そのまま調査。違う場合も調査(その場合はクロソセクションとして扱う。)1983年の回答者が離婚離別している場合は、もとの配偶者を探し、両方に調査。不足分を埋めるために、小さな補足サンプルを追加。	4437人 1479人がオリジナルのパネルに回答。
3		「消費者ファイナンスについてのパネル調査」 全米／22歳以上／6年後				
1	疾病	Tecumseh Community Health Study, 1959-1969 [ICPSR8969] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08969.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08969.xml</a>	疫学的調査。ミシガンの南東部で、1957年から30年間継続(データセットには1969年までのもの)。1970年までは、新しい住民も参加。80以上の調査を実施。特定の疾病に関するもの、地域における疾病の発生率や発生数を捉えた。	既往歴、検診、医学的測定、検査、ECGなど。人口学的属性、家族既往歴、現在と過去の症状、喫煙飲酒習慣、健康診断、その他測定や検査を含む。	都市部と田舎部を合わせた平均的な中西部の地域ミシガンの Tecumseh が選ばれた。また地域のリーダーや医療関係者も調査に積極的だったこともある。 2400世帯、8800人の住民の全数調査。	1959-1960年 and 1962-1965年 and 1967-1969年の調査に1度以上参加した者11563人、3回全て参加が4312人。3波すべて8637人。
3	疫学					
4	学	「Tecumseh 地域保健調査」				

1	発達 ・英才	Recumseh 地域／年齢？／30 年間 Terman Life-Cycle Study of Children with High Ability, 1922-1991 [ICPSR 8092] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-UNCAT/08092.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-UNCAT/08092.xml</a>	1,528 人の能力の高い子ども の性格や生活面での特徴を 追跡する。1922 年から、継続 されている。1986 年には 720 人に。元々の研究は、頭のよい 子どもについての様々な神話 を覆すことが目的であった。人 口の上位 1% にランクされた 人を調査。調査票、面接調査、 その他のテストなどによって その後の 60 年間、追跡。	健康、身体的、精神的な発達、学校歴、 レジャー活動、家庭生活、家族の背景、教 育・職業・結婚歴。収入、精神的安定、社 会政治的意識もたずねた。 追跡では、対象者のキャリア、行動パタ ーン、個人的なアジャストメント。1972 年以降は加齢の過程についての質問。	1922 年、カリフォルニア在 住の子ども、平均年齢 12 歳。 スタンフォードビネット知 能テストで 135 点以上。 最終的には 812 人が残る。(こ の数値は 1986 年のと一致し ない。)							
3	家族 形成	「能力の高い子どものライフ サイクルのターマン調査」 カリフォルニア／12 歳／72 歳 まで・10 回以上										
5	意識											
1	生活	Time Use Longitudinal Panel Study, 1975-1981 [ICPSR 9054] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09054.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09054.xml</a>	生活時間調査。									
3	時間											
6		「生活時間に関する縦断調査」 全米？／全年齢／6 年後										
1	子ども	Transition Into Adolescence: A Longitudinal Study (ds810) 1974-1979 年	こども時代から 思春期前 期、中期への移行を評価し、 それがいかにかにこどもが通って いる学校、二次性徴、そして ジェンダーによって影響を受 けているか追跡調査。									
3	青少年	「思春期への移行：長期研究」 6 年生／2 回＋9 年生／2 回										
7	の発達											



キャリア	Turkish Managers of Modernization Study, 1956-1965 [ICPSR 7077] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY07077.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY07077.xml</a>	トルコの管理職のエリート的重要な核を構成している、トルコの行政官僚と公的機関に勤務する、アンカラ大学の政治学科卒業生の調査。	トルコの行政官僚と公的機関に勤務する、アンカラ大学の政治学科卒業生を対象。1956年と1965年の2波を実施。第1波で調査された380人のうち、241人が1965年に答えた。さらに、政治学科の最近の卒業生(69人)の新しいサンプルが加えられ、第2波の1965年は、310人が調査された。	1956年380人。 1965年241人回答+69人追加。
1 近代化	「トルコにおける経営者の近代化に関する研究 1956-1965年」	1956年と1965年の調査の焦点は、卒業生が大学を離れてからのキャリア経歴、彼らの管理的な能力、仕事の中で職業上の満足感に寄与する側面について、職業人としての生活に学部生のときの勉強がどれくらい役立っているかなど。性別と収入の属性もあり。	1956年と1965年の2波を実施。第1波で調査された380人のうち、241人が1965年に答えた。さらに、政治学科の最近の卒業生(69人)の新しいサンプルが加えられ、第2波の1965年は、310人が調査された。	1956年380人。 1965年241人回答+69人追加。
3 トルコ	アンカラ大学卒業生/9年後	運動前の投票予定、運動後実際にどう投票したかをたどる。 1 波は、組合代表についての感じ方。労働条件、組合についての意識。明日投票だったらどうするか。 2 波は、運動の内容の記憶、なぜのようない理由でどう投票したか、会社や組合からのプレッシャーなどを観察したか。職業経歴、年齢、性別、人種、教育レベル、政治指向、婚姻状況、契約、週労働時間、時給、組合に入っていたか、前回投票したか、配偶者、両親が組合員だったかかなど。	アメリカ、1972-73年組合選挙に参加した労働者。31の選挙を調査、組合側勝利が8。*調査とその目的は、次に詳しい。Getman, Julius G., Stephen B. Goldberg, and Jeanne B. Herman. UNION REPRESENTATION ELECTIONS: LAW AND REALITY. New York: Russell Sage Foundation, 1976	1300人に接触し、1239人が2回の調査に参加。
1 労働組合	Union Representation Elections and the Role of the National Labor Relations Board [ICPSR 7625] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY07625.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY07625.xml</a>	委員会の考え、代表の投票に関心をもち、投票するかは選挙前の運動によって影響されるといいう仮説を調べる。この前提において、組合は規則を作っている。不法な運動が、労働者の組合選挙に対する考えかたにどう影響するかを調べる。*	アメリカ、1972-73年組合選挙に参加した労働者。31の選挙を調査、組合側勝利が8。*調査とその目的は、次に詳しい。Getman, Julius G., Stephen B. Goldberg, and Jeanne B. Herman. UNION REPRESENTATION ELECTIONS: LAW AND REALITY. New York: Russell Sage Foundation, 1976	1300人に接触し、1239人が2回の調査に参加。
3 9	「組合代表選挙と全国労働組合委員会の役割についての調査」	初回からの参加者とその親について、1957-1975の社会的背景、若い時と成人してからからの期待や目標、教育、軍隊サービス、労働市場での経験、家族形成、労働市場経験、社会参加。 1992-93の調査では、職歴、収入、資産、金銭の移行、親、きょうだい、子どもの社会的経済的地位、精神的身体的健康状態。1977と1993-94年には、きょうだいの調査も行われた。	アメリカ、1972-73年組合選挙に参加した労働者。31の選挙を調査、組合側勝利が8。*調査とその目的は、次に詳しい。Getman, Julius G., Stephen B. Goldberg, and Jeanne B. Herman. UNION REPRESENTATION ELECTIONS: LAW AND REALITY. New York: Russell Sage Foundation, 1976	1300人に接触し、1239人が2回の調査に参加。
1 若者	全米/組合選挙参加者/2年間	ウイスコンシンンの高等学校を1957年に卒業した10000人の男女の社会的、経済的ライフコースについての35年にわたる調査。25, 26, 53-54歳で、追跡調査。	アメリカ、1972-73年組合選挙に参加した労働者。31の選挙を調査、組合側勝利が8。*調査とその目的は、次に詳しい。Getman, Julius G., Stephen B. Goldberg, and Jeanne B. Herman. UNION REPRESENTATION ELECTIONS: LAW AND REALITY. New York: Russell Sage Foundation, 1976	1300人に接触し、1239人が2回の調査に参加。
4 0	Wisconsin Longitudinal Study, 1957, 1964, 1975, 1977, 1992-1993, and 1993-1994 [ICPSR 6163] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY06163.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY06163.xml</a>	ウイスコンシンンの高等学校を1957年に卒業した10000人の男女の社会的、経済的ライフコースについての35年にわたる調査。25, 26, 53-54歳で、追跡調査。	アメリカ、1972-73年組合選挙に参加した労働者。31の選挙を調査、組合側勝利が8。*調査とその目的は、次に詳しい。Getman, Julius G., Stephen B. Goldberg, and Jeanne B. Herman. UNION REPRESENTATION ELECTIONS: LAW AND REALITY. New York: Russell Sage Foundation, 1976	1300人に接触し、1239人が2回の調査に参加。
1 0	「ウイスコンシンン縦断調査、	ウイスコンシンンの高等学校を1957年に卒業した10000人の男女の社会的、経済的ライフコースについての35年にわたる調査。25, 26, 53-54歳で、追跡調査。	アメリカ、1972-73年組合選挙に参加した労働者。31の選挙を調査、組合側勝利が8。*調査とその目的は、次に詳しい。Getman, Julius G., Stephen B. Goldberg, and Jeanne B. Herman. UNION REPRESENTATION ELECTIONS: LAW AND REALITY. New York: Russell Sage Foundation, 1976	1300人に接触し、1239人が2回の調査に参加。
1 0	家族形成	ウイスコンシンン縦断調査、	アメリカ、1972-73年組合選挙に参加した労働者。31の選挙を調査、組合側勝利が8。*調査とその目的は、次に詳しい。Getman, Julius G., Stephen B. Goldberg, and Jeanne B. Herman. UNION REPRESENTATION ELECTIONS: LAW AND REALITY. New York: Russell Sage Foundation, 1976	1300人に接触し、1239人が2回の調査に参加。

	<p>1957, 1964, 1975, 1977, 1992-1993, 1993-1994年」</p> <p>ウィスコンシン／高校卒業／25歳／26歳／53-54歳（親、きょうだいの調査あり）</p>	<p>ライフコース、結婚、中年期、移動、職業、性格、宗教、きょうだい、社会参加、投票、うえるビーイング、仕事。</p>	<p>（調査サイトより）</p> <p>10317人の男性と女性と無作為で抽出された彼らからのきょうだいの調査。回答者あるいは親からの回答は、1957, 1964, 1975, and 1992年、きょうだいの調査は、1977と1993年。</p> <p>始めの頃の調査では、メンタル能力のテスト（回答者と2000人のきょうだい対象）、居住する地域、学校、産業、雇業者の特徴。データでは、回答者について、調査参加者の中の同性の友人3人とのリンクもしている。1977年には、回答者の2000人のきょうだいについて高度に層化した並行の面接調査を実施。92-93年：きょうだいの回答者のきょうだいを無作為に選ぶ、詳細の職業や職種、収入、資産、家族間財産のやりとり、親の社会経済的屬性、きょうだいや子どもと回答者の関係、精神的、身体的健康の詳細の記述。</p>	<p>ランドやチェコ系が多い。</p> <p>1950年代ウィスコンシンでは75%が高校を卒業したと推定される。サンプルの全員が高卒、そのきょうだいでは7%が高校を卒業していない。数人のアフリカ系アメリカン、アジア系アメリカン、ヒスパニックを含むのみ。マインリテイを代表していない。（別プロジェクトで、1957年に高校を卒業したアフロアメリカンの調査を行う予定。）サンプルの19%が農業出身（1930年後半に生まれた人についての全国サンプルによる推定と同じ程度。）</p> <p>調査は、1時間の電話調査と20ページの自記式の調査。回答者が死亡している場合は、回答者の親戚に対し、簡単な調査。きょうだいが死亡している場合は回答者に簡単な質問をする。</p>	<p>年追跡では53,54歳であった。1975年に調査しなかった人も、再度調査（850人の無回答者中475人を調査。）</p> <p>合計では、当初のサンプルで生存している9741人中8493人を調査。</p> <p>1993-94年には、無作為で選出したきょうだいも調査。1977年に調査した2000人とさらに追加の2800人が調査された。</p>
D V 1 4 1	<p>Women and Family Project (ds17)</p> <p>1991-1996年</p> <p>「女性と家族プロジェクト」</p> <p>南西部大都市／3回</p>	<p>子どもの精神的問題と、家庭内暴力との関連を調査。第1の目標は、家庭内暴力が起きている家では、子どもの問題がそれ自体どのように顕在するかについて。そして、家族間の強い絆（母親やきょうだいへの愛着として表出される）が、家庭内の暴力からの影響を緩和させるかについての検討。</p>	<p>3校にわたる南西部の大都市での調査。</p> <p>家庭の中で虐待、サポート、核家族の中でのサポートと親密さ、母親と子どもの一般的な精神健康の状態について。子どもの精神病理を評価するために使用された測定具は「子ども行動チェックリスト」および「子どもアセスメント・スケジュール」など。母親の精神状態は、「Conflict Tactics Scale」「Brief Symptom Inventory」によって測定された。教育、収入、雇用ステータスおよびリンクそのほかの属性の情報（現在のパートナーとの関係の期間など）</p>	<p>暴力を受けた女性の避難所(n=64)および、家庭での暴力があるとスクリーニングされたコミュニティーの各所(店、教会および社会サービス機関)を通じて (n=102) 募集。</p> <p>コントロール・サンプル(n=199)はコミュニティーで、子どもが6-12歳の女性を「家族に関する研究」のために必要としているという</p>	<p>ヨーロッパ系アメリカ人53%、アフリカ系アメリカ人6%、メキシコ系アメリカ人35%、アメリカインディアン4%、アジア系アメリカ人その他2%。サンプル中の54%は父親が子どもと血がつながっている。27%は法律上の義理の父親。19%</p>

				も集められた。	ポスター/チラシで募集された。 365人の女性と子ども1人。子どもは男の子183人、女の子182人。母親は平均年齢33歳、平均12年の教育を受けていた。	は法律上も生物学上も無関係。子どもは6-12歳。
1	女性キャリア	3年間の追跡調査。非伝統的・伝統的ブルーカラーの職業についている女性の経験について調査。非伝統的職とは、配管工、電気工、配線工、フォークリフト操縦者など。	1975年と1976年の冬と春に、117人の女性が、2-3時間のインタビューをされた。(86人は非伝統的なブルーカラーの仕事、31人は伝統的な女性の仕事とされている、熟練・半熟練工。) 幼年期の経験および家族背景、職歴、どのようにしてブルーカラーの仕事につくようになったのか。仕事役割および家族役割;現在の仕事およびトレーニング経験;また仕事で他の人々との関係。 1977の春:現在の雇用に対する、満足感および不満感;仕事に必要な技術およびトレーニング;サポートネットワーク;仕事および家族役割。 1978の春:現在の雇用;仕事のタイプ、役職や給料および(または)雇用者の変化;仕事にとどまっている/または仕事を離れた理由;将来の雇用見通し。	1975年の冬と春に、117人の女性が、2-3時間のインタビューをされた。(86人は非伝統的なブルーカラーの仕事、31人は伝統的な女性の仕事とされている、熟練・半熟練工。) 幼年期の経験および家族背景、職歴、どのようにしてブルーカラーの仕事につくようになったのか。仕事役割および家族役割;現在の仕事およびトレーニング経験;また仕事で他の人々との関係。 1977の春:現在の雇用に対する、満足感および不満感;仕事に必要な技術およびトレーニング;サポートネットワーク;仕事および家族役割。 1978の春:現在の雇用;仕事のタイプ、役職や給料および(または)雇用者の変化;仕事にとどまっている/または仕事を離れた理由;将来の雇用見通し。	カリフォルニアの3つの都市:サンフランシスコ、ロサンゼルス、サンディエゴ、の訓練と雇用のクロスセクションから選ばれた。熟練工または準熟練職の、訓練中またはオンザジョブプログラムに、1975年の秋に所属していた者。比較対照グループとして、より伝統的なサービス業、たとえば美容師業などについている女性が初年度にインタビューされた。 1977の春、初回の回答者のうちの61人が再インタビューを受けた。(非伝統的な51名と伝統的な10名)。 1978の春、非伝統的ブルーカラーの85名の女性のうち54名と電話インタビューが行なわれた:	117人の女性 1回目追跡61人 2回目追跡54人。
1 4 3	女性科学教育	Women in Nontraditional and Traditional Blue Collar Occupations (ds759) 1975-1978年 「非伝統的・伝統的ブルーカラー一職についている女性」 カリフォルニア3都市/3年間/3回	高校3年生のときに科学を専攻しようと考えた学部生がどのくらい割合でその思いを貫いているかについての調査。 その思いを貫いていることに関連のある要因を、男子学生と女子学生両方について検討。	学生は、1, 2, 3, 4年時に、高校での経験および成績に関する情報、自分について、成功と失敗のパターン、および親の背景および影響についての質問票を送付された。サブサンプルは2年時に、科学コースに関するより詳細なインタビューを受けた:どのよう専門を選んだか、自分について、また、科学・人文・社会科学を一般的な学問分野として比べてどう思う	1983年の夏、大学の志願書上で科学専攻に関心を示していた300人の女性および300人の男性が選ばれた。その後、この新入学生たちを、SAT 数学スコアの10ポイント以内のケースバイケースで男女ペアにした。「科学」とは本研究では、生	300人の女性 300人の男性

			か。		物科学、物理学、数学およびエンジニアリングを含む。	
1	家庭生活	Women's Roles and Well-Being (ds1813) 1956-1990年 「女性の役割と健康」	30年以上にわたる、家庭生活、職場、ボランティア活動の3つの場での女性の活動研究。生涯におけるこれら3つの場へのかかわりのダイナミクス。年齢による違い。成人してから女性の役割の軌跡と、自分の現在に対する評価。母親の人生の願望や指向性が、母親の経験を通じて、成人した娘にどう伝わっているか。	1956年：女性の生活についてのさまざまなトピック、キャリア、家族、社会生活の問題などを取り上げた。1986年から1988年：母と娘の詳細な人生史。日記式質問票：母と娘の、家事、仕事、ボランティア役割、家庭や個人的状況、親との関係、自分についてなど。 1990年：母親たちは人生の大事件をどう経験したか、また人生の中で、どのような経験が重大だったかについての手紙。	1956年、ニューヨーク州北部に住む妻であり母である、無作為抽出された427人の女性をインタビュ。23-51歳。多数は高卒、労働者階級。1986年にフォロアアップ調査。1987-1988年に、そのうちの246人の娘1人をインタビュ。	1956年 427人 1986年 313人 1987-88年 246人
4	仕事	ニューヨーク州北部/既婚の母/23-51歳/30年以上				
4	女性					
4	健康					
1	青少年	Woodlawn Mental Health Longitudinal Community Epidemiological Project (ds774) 1964-1976年	就学時から思春期までにわたる、こどもの精神保健の調査。家族構成、学校の雰囲気、周辺地域など、環境が心理的な健康に及ぼす影響に焦点をおく。思春期の、薬物依存/濫用のリスクの増大との関連ある要因を特定し、予防や介入に役立てる。	臨床の測定具(例えば"How I feel" schedule; Mother Symptom Inventory)は、こどものおよび母親の機能の報告と症状を評価する。教育的測定具は、こどもの適性、学習への準備、教室での振る舞いを評価するために含まれた。家族構造と厚生は母親とのインタビュを通じて評価。思春期のフォロアアップでは、質問票で、薬物使用の頻度、愛情とルールに関する家族内の実際と価値観、非行の自己報告、性行動および態度を評価。	オリジナルサンプルは、シカゴ南部の都市部の貧しい地域在住のアフリカ系アメリカ人小学校1年生の4つの集団。 1964-1967毎年登録。1年生(1966-1967)の第3コーホートは母親もインタビュ。1976年、こどもたちがティーンエイジャーのとき、フォロアアップ調査。	1966年 1388人母親、 1976年 939人母親  子ども 1242人+追加 200人
5	精神的健康	「ウッドローン 精神衛生疫学的追跡調査プロジェクト」 シカゴ南部の都市部/小学1年生と母親/10年以上				
1	貧困	Worcester Family Research Project: Baseline Data (ds1099) 1992-1995年	ホームレス家族と、その比較対照の低収入家族についての総合的な質的、量的データを得ること。ホームレスになるリスク要因と、ホームレスであることがこどもの社会的、精神的、認知的発達に与える影響について。	母親からのデータは、4回にわたって集められた。全部で約10時間。人口学的属性、住居の情報、人的ネットワーク、社会的資源、性的または身体的暴行を受けた経験、精神衛生、薬物乱用、健康状態。ひとりひとりのこどもも、発達段階に応じた質問票、インタビュなど。	1992年8月から1995年7月の間に、220の、ホームレスの母子家庭(220人の母親と350人のホームレスのこどもたち)と、AFDCを利用してしている母子家庭(216人の女性と350人のこどもたち)。	220人の母親 350人の子ども。
4	母子家庭	「Worcester家族研究プロジェクト」				
6	貧困	マサチューセッツ州/ホームレスと低収入母親/4回/3	National Center on Family	マサチューセッツ州 Worcester のホームレスと低収入家庭の女性の追跡調査のペー	36%がエルトリコ人、35%白人、12%がアフリカンアメリカン	

	年	Homelessness	スラインの1部。	リカン、6%がそのほかのラテン系。	
若者	Young Men in High School and Beyond: A Summary of Findings from the Youth in Transition Project, 1966-1974 [ICPSR 3505] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03505.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03505.xml</a>	1966-74年の5波パネル調査移行期にある若者の追跡調査プロジェクトの一部。高校退学の原因とその結果を調べる。性格や行動の特徴などを探り、退学のリスクのある者を把握。	5波全てで、能力と学力、家族について、その他の決め手となる特徴（情緒的状态、自己概念、価値観と意識、将来予定と行動。） 回答者の政府、政治家への意識、人種統合、ベトナム戦争に対する態度。就業経験、収入、軍隊経験、教育など。	1966年：多段階確率抽出により、アメリカ全国から、公立学校（87）の10年生の男子生徒(2213)を選んだ。	1968年1,886 1969年6月1,799 1970年7月1,620 1974年1628人？
1	「若い男性の高校以降—移行期にある若者についての調査」				
4	全米／高校2年生／2年後／3年後／4年後／8年後・5回				
7	意識				
若者	Youth Attitude Track Study (YATS) [United States]: Fall 1991 [awaiting update to data] [ICPSR 6238] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06238.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06238.xml</a>	若者の軍隊に対する意識、政治意識、教育や仕事についての調査。  (United States Department of Defense, Defense Manpower Data Center)	1975年に開始。軍、軍の広告の認識とそれに対する反応、回答者の軍の様々な隊に参加するかどうかの可能性をたずねた。政府、政治問題についての意識。アメリカは他国に比べて軍事力を強めるべきかどうか、女性もドラフト登録すべきかどうか、アメリカは、経済利益を守るため、あるいは他国の権利を守るために戦争すべきかどうかなど。 現在の就学状況と教育レベル、完了した学年、学校の種類や証書の種類、大学の予定、大学学費支払いの予定など。 過去の就業、働いた理由、現在の仕事への満足、住んでいる地域での雇用環境など。年齢、性別、人種、ヒスパニックか否か、婚姻状況、住宅、世帯構成、親の教育など。	16-24歳、アメリカの施設等を除く世帯に居住し、電話を所有しており、現在も過去にも軍に参加しておらず、調査時に参加予定が決まっていない人。 縦断調査 5498人。1990年秋か1991年夏に、YATSの実施の際、調査された、年齢条件を満たした人。 横断調査 4893人面接。横断調査のサンプルは、RRD方式で選ばれた。電話調査、1991年10月から11月実施。1992縦断調査 5013人(前回調査し、年齢条件にかなった人)、横断調査 5574人。RD Dで抽出。電話調査、1992年9-11月	1991: 10,391人 1992: 10,587人
1	進学				
4	「若者意識変容追跡調査、1991年秋」				
8	全米／16-24歳／1年後				

			業後 officer training をする興味があるかをたずねた。		
1	Youth-Parent Socialization Panel Study, 1965-1982: Three Waves Combined [ICPSR 9553] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09553.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09553.xml</a>	全国の高校生（12年生）とその親の調査。生物学的にながった親子において、政治的な継続性をみる。ライフイベントや歴史的出来事が行動や意識に与える影響を調べる。	政治参加、政治への興味、社会問題に対して持つ意見、団体の評価、市民的指向、意識や行動の個人的な変化と安定、支持政党と選挙行動。また各回に特別な焦点を設けた。 1965年：高校での経験、家族関係。 1973年：市民運動の時代、政策への意識 1982年：成長過程、親の問題や家族関係 1997年：政治についての見解、よい市民の概念、政府への信頼、アメリカ政府に対する意識。組合に対する意識、活動団体、政治家、特定の団体の影響力。 1982年以降の個人と家族における変化。性別、年齢、宗教、宗教参加の程度、婚姻状況、エシニシテイ、教育状況と経歴、居住地、家族収入、就業状況。	1965年アメリカ全国の97の高等学校（111の公立でないものも含む）が、大きさに比例した確率で選ばれた。各校から、15-21人の12年生が抽出された。	1965年 1669人 3分の1の生徒の母親、3分の1の生徒の父親、残りの3分の1の両親合計 1561人が面接。 1973年 1119人、229人 郵送回答。1973年：1118人の親。62の郵送回答。 1982年 958人再調査、82の郵送回答。1982年 816人の親、82の郵送回答。 1997年：1669人のオリエジナルのうち、935人 56%
4	「若者と親の社会化に関するパネル調査 1965-1982（3波統合）」 Youth-Parent Socialization Panel Study, 1965-1997: Youth Wave IV, 1997 [ICPSR 4023] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/04023.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/04023.xml</a>				
9	全米／高校生とその親／8年後／17年後／32年後				

2. 政治・選挙に関する調査

<p>政治・選挙 201</p>	<p>American National Election Series: 1972, 1974, 1976 [ICPSR 7607] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07607.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07607.xml</a> 全米/18歳以上/6年間6回</p>	<p>アメリカ人の個人的背景、政治的特徴、社会政治的価値観、候補者やそのグループに対する評価、政策に対する意識、政治参加に関して把握する。</p>		<p>1972年11月の時点で18歳以上。アメリカの一般世帯に住む人</p>	<p>1972年選挙前、後、 1974年選挙前、後、 1976年選挙後。 4445人。</p>
<p>政治・選挙 202</p>	<p>American National Election Study, 1980 [ICPSR 7763] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07763.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07763.xml</a> 全米/18歳以上/3回</p>	<p>市民の支持政党、政策に対する意識、政治的リーダーシップに対する市民の捉え方、社会ネットワークによる投票選択の固定化などを検討。</p>		<p>ニューハンプシャー予備選挙の前、6月すべての予備選挙終了後、9月、選挙後の11月に調査</p>	<p>パネル1008人</p>

<p>American National Election Study, 1992: Pre-Election Survey [Enhanced with 1990 and 1991 Data] [ICPSR 6067] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocon/ICPSR-STUDY/06067.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocon/ICPSR-STUDY/06067.xml</a></p>	<p>政治問題に対する意識ならびに選挙や政治家に対する意識を調査。</p> <p>1992年選挙前後調査では、湾岸戦争開始時期のブッシュ大統領の高い支持率から、1992年選挙時の不景気に向けての市民の意識の変化を調べる。</p>	<p>1990年：大統領の仕事ぶり、湾岸戦争、価値観、個人主義、外交について。</p> <p>1991年：湾岸戦争の敵対意識が収まってから、数ヶ月後に調査。1990年の選挙後調査と同じ項目、湾岸戦争に関わる項目、ジェンダー、エスニシティ、高齢者の医療ケア、社会利他主義について。</p> <p>1992年選挙前後：中絶、死刑制度、学校での祈禱、同性愛者の権利、セクシュアルハラスメント、女性の権利、フェミニスト意識、人種・エスニシティに関するステレオタイプ、学校統合、アフアーマティガル教育、移民、移住政策、バイリンガル教育、アメリカの外交政策、湾岸戦争に関する考えなど。</p> <p>1994年：防衛費、アフリカ系アメリカ人への公的支援、支出とサービスのトレードオフ、医療保険、女性の役割、福祉の改革、国家予算の配分、経済状況の評価、政治のキャンペーンへの参加、平等に対する意識、人種、学校での祈禱、中絶についての意識も含む。</p>	<p>1990年選挙前後 (1980年)</p> <p>1992年 1383人</p> <p>1991年に回答しなかった人も含む</p> <p>3波全てに回答 1060人</p> <p>1992年選挙前後 (1005人)</p> <p>1993年(1005人)</p> <p>1994年(1795人、うち759人は1992年調査から、635人は1993年パネロット調査に参加、1036人は新規)</p> <p>欠票については、その理由、訪問回数、調査できなかった世帯の情報を含む。</p>
<p>2</p>			
<p>0</p>			
<p>3</p>			
<p>American National Election Study, 1994: Post-Election Survey [Enhanced with 1992 and 1993 Data] [ICPSR 6507] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocon/ICPSR-STUDY/06507.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocon/ICPSR-STUDY/06507.xml</a></p>			<p>全米18歳以上/各回選挙前後</p>



2 0 4	政治イギリス	British Election Study: June 1970-February 1974 Panel Survey [ICPSR 7869]	メディアにおけるバイヤス、1974年選挙における投票第一第二候補、各政党への意識、国内、外交政策、各政党の主張への反応、階層、将来のイギリス経済。		多段階確率抽出。80の選挙区。1969年と1970年の選挙後、1974年	2207人
2 0 5		British General Election Panel Survey, 1986-1987 [ICPSR 6450]			1983年に調査した250選挙区から115区を選び、1986年には1633人、1987年2波では86年に拒否した人を除く1021人。	1986年 1633人 1987年 1021人
2 0 6		British General Election Panel Survey, 1987-1992 [ICPSR 6451]		政治や社会的意識、生活での経験、政治関心、支持政党、政党間の比較、就業、組合、生活満足度。		1987年の回答者のうち363人は拒否した。3463人のうち1631人が電話選挙運動と選挙後調査、2062人が面接調査に当てられた。
2 0 7		British General Election Panel Survey, 1992-1997 [ICPSR 2616]	1992年から1997年の個人レベルでの政治意識と社会経済状況の安定と変化、ならびに投票行動をみる。			3534人
2 0 8		British General Election Study: Campaign Panel, 1997 [ICPSR 2619] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cookie/ICPSR-STUDY/02619.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cookie/ICPSR-STUDY/02619.xml</a>		属性、支持政党、政治指向、世帯規模、婚姻状況、階級、就業歴、健康保険加入状況、国籍、選挙登録状況、くじやギャンブルの有無、収入、地域や近隣の状況	17歳以上の英国に住む成人。	1996年A波 3662人、1997年B波 1800人、1997年C波 1809人、1997年D波選挙後 2047人。
						イギリスほぼ全域/有権者

209	政治カナダ	Canadian National Election Study, 1972 [ICPSR 7140] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07140.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07140.xml</a> カナダ全国/有権者/3回	カナダの政治や選挙に関する調査	政党や政治家についての意見、インフレについての意見、憲法改正、選挙運動の資金、マリファナの法規制、公務員のストライキ。首相の評価、投票行動など。 2波：失業、アメリカカナダカンセン系、環境、税、価格調整、政策、候補者選好。	政党や政治家についての意見、インフレについての意見、憲法改正、選挙運動の資金、マリファナの法規制、公務員のストライキ。首相の評価、投票行動など。 2波：失業、アメリカカナダカンセン系、環境、税、価格調整、政策、候補者選好。	全国確率抽出、ケベック州でオーバーサンプル。	1波：1972年1000人。 2波：1972年9月、1255人。 3波：1296人(初めての人、前に調査した人も含む。)
210	政治カナダ	Canadian National Elections and Quebec Referendum Panel Study 1974-1979-1980 [ICPSR 8079] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/08079.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/08079.xml</a> カナダ全国/有権者/3回	カナダの政治や選挙に関する調査	選挙結果の予想、主な政党に対する意識、政党帰属意識、政治歴、投票予定、政治への関心、政治活動の資金の使い方、憲法改正、失業、インフレ、税、教育、環境問題、アメリカカナダ関係、ケベックの独立についての意識など。	選挙結果の予想、主な政党に対する意識、政党帰属意識、政治歴、投票予定、政治への関心、政治活動の資金の使い方、憲法改正、失業、インフレ、税、教育、環境問題、アメリカカナダ関係、ケベックの独立についての意識など。	多段階別クラスター。	1974年2562人、1979年1295人(新しいサンプルの追加、若いサンプルの追加、若いサンプルの追加)、1980年1748人、1980年5月に、ケベックの過去の対象者のみ、325人を調査。
211	政治オランダ	Dutch Election Study, 1970-1973 [ICPSR 7261] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07261.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07261.xml</a> オランダ全国/有権者/3年3回	1波 1970年オランダ県知事選挙後。 2波 1971年議会選挙後、 3波 1972年の議会選挙後。	政党帰属意識、投票選択、候補者の認識、問題の重要性の認識、政治活動。2波では、政党忠誠、市民妨害、発展途上国への支援、収入配分、税、防衛費についてのスタンスに対する意識、政党がどの程度市民に込んでいるかの認識。3波では、意識や意見の変化を計った。政策についての考えについての項目多数が繰り返りかえされた。個人の属性は3波ともあり。	政党帰属意識、投票選択、候補者の認識、問題の重要性の認識、政治活動。2波では、政党忠誠、市民妨害、発展途上国への支援、収入配分、税、防衛費についてのスタンスに対する意識、政党がどの程度市民に込んでいるかの認識。3波では、意識や意見の変化を計った。政策についての考えについての項目多数が繰り返りかえされた。個人の属性は3波ともあり。		1970年1838人、1971年1262人、1972年972人。1と2どちらかを拒否した人に郵送し、356人から回答を得る。
212	政治オランダ	Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1971-1979 [ICPSR 6743] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/06743.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/06743.xml</a> オランダ全国/有権者/8年・6回	オランダの投票行動と政治指向の変化と安定を明らかにする。	1971年：マスメディアとの接触、リーダーについて意識、地域・国の政府の評価、自治体・国・世界での重要問題、政治効力、政治関心、民主主義・NATO・外交に対する意識、戦争の可能性。(他波でも、繰り返される。) 1972年：外交問題、主たる人や団体への信頼、福祉、政府、収入、住宅ニーズ、インフレ、娘の夫の選択の容認度。 1973年：環境政策における政府の役割、	郵便配達名簿に基づく地域名簿から4000世帯を抽出。世帯から1人抽出。 1波 1971年3,4月、2波 1971年4,5月、3波 1972年11,12月、4波 1973年3,8月、5波 1977年6,8月、6波 1979年9月-1980年1月。		合計 2495人。

			政策、商業や産業における政府の役割、豊かさに対する意識。 1977年：追加：政党のイメージ、国の問題、失業の原因、政策の評価、投票行動、政治的左右の尺度、自由、平等、中絶、ヨーロッパ統合に対する意識。 1979年：連立に対する意見、帰属政党意識、政党への同意度、内閣の評価、71,72,77年の投票、過去10年間の政党に対する意識。 属性：年齢、性別、教育、婚姻状況、子ども数、世帯収入、宗教、居住地。			
2	政治	Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1981-1986 [ICPSR 9272] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09272.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09272.xml</a>	1波 (1981年1,2月)：政治関心、回答者にとっての国の重要問題、1977年の投票、政党帰属意識、投票予定、政治の効力、左右の尺度、選挙結果の予想。 2波 (1981年4,5月)：連立に対する意見、政治知識、経済問題、中絶、核燃料、収入格差、各種問題の解決にはどの党の対策が適切か、宗教への意識、政府の満足度、社会参加。 3波 1981年5,6月：1981年の投票行動、市民の力、政治参加、物質主義的な価値観、女性解放、社会抗議、政府の信頼、宗教と社会について。 4波 1982年9,10月：1982年の投票、テレビ討論の効果、今後の投票予定。 5波 1986年5,6月：1986年の投票、失業経験。 属性：性別、年齢、婚姻状況、就業状況、職業、教育、宗教、世帯規模、世帯収入、居住地。	1981年選挙人名簿から。最終波では、一度でも回答した人にコンタクトした。		合計 2305 人。
3	政治	Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1986-1989 [ICPSR 6742] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06742.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06742.xml</a>	政治関心、重要な国の課題、政党帰属意識、1986年の自治体選挙での投票、経済政策、中絶、収入格差、核燃料、1986年の投票予定。(2波以降も。)	郵便配達名簿に基づく地域名簿から4000世帯を抽出。世帯から1人抽出。		1630 人
1	政治		2波：政治効力、政治知識、宗教と社会、			

4	オランダ全国／有権者／3年・3回	1982,86年の投票行動、回答者のパートナ一の投票、政治の左右の尺度、組合加入、社会運動への参加、市民政治活動への参加とその効力、各種問題についての意識。 3波：1989年の投票行動、政策、左右尺度、経済成長の予測、新社会運動への参加、革新・保守について、公害、しきたりと伝統。 属性：年齢、性別、婚姻状況、就業状況、職業、教育、宗教、世帯収入。	1982,86年の投票行動、回答者のパートナ一の投票、政治の左右の尺度、組合加入、社会運動への参加、市民政治活動への参加とその効力、各種問題についての意識。 3波：1989年の投票行動、政策、左右尺度、経済成長の予測、新社会運動への参加、革新・保守について、公害、しきたりと伝統。 属性：年齢、性別、婚姻状況、就業状況、職業、教育、宗教、世帯収入。	郵便配達名簿に基づく地域名簿から4000世帯を抽出。世帯から1人抽出。 1989年7月選挙前、1989年9月選挙後 1994年5,6月選挙後。	1755人
2	Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1989-1994 [ICPSR 6751] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/06751.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/06751.xml</a>	3波パネル。	1波：政治への関心、回答者にとっての重要な政治課題、投票予定、所属政党、政策や政治家に対する意識、中絶、収入格差、環境汚染に対する意識、属性。 2波： 3波：同上。追加は、安楽死、核兵器、経済問題についての各政党の考えの評価、政治家についての知識、政党評価、政府の評価、組合所属の有無、ヨーロッパ統合についての意見。		
2	Dutch Parliamentary Election Study, 1971[ICPSR 7311] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07311.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07311.xml</a>	1971選挙の選挙運動中と、投票日後に調査。	政党選好、政治参加、政治問題に対する意識、社会や地域での問題、政党の評価、属性変数。		1波 2495人のうち、1980人が2波を回答。
1	オランダ全国／有権者／5年・3回				
6	オランダ全国／有権者／3ヶ月・2回				
2	Dutch Parliamentary Election Study, 1981[ICPSR 7912] <a href="http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07912.xml">http://webapp.icpsr.umich.edu/ccocon/ICPSR-STUDY/07912.xml</a>	3波パネル 選挙運動と選挙の効果をみる。	政治知識、関心、参加、中絶、女性の権利、核、軍事、収入格差、犯罪、失業、公害などについての考え。		1波 2305人、2波 1812人、3波 1620人。
1	オランダ全国／有権者／半年・3回				
7	オランダ全国／有権者／半年・3回				